

## 日本地球化学会 2009 年度第 3 回評議員会議事録案

日時：2009 年 9 月 14 日(月) 14:00 ~ 18:15

場所：広島大学理学部・理学研究科 A017 室 (大学院講義室)

出席者：蒲生俊敬会長, 海老原充副会長, 石橋純一郎, 小畑元, 佐野有司, 鈴木勝彦, 角皆潤, 平田岳史, 益田晴恵, 南雅代 (以上幹事), 天川裕史, 植松光夫, 鍵裕之, 北逸郎, 中塚武, 奈良岡浩, 日高洋, 松本拓也, 三村耕一, 塚本 尚義(以上評議員)

### 1. 2009 年度第 2 回評議員会議事録の承認

### 2. 報告事項

#### (1) 庶務 (小畑幹事) :

【研究助成等】2009 年第 2 回鳥居基金助成, 応募 7 件 (海外渡航 5 件, 国内研究集会 2 件; 7.31)【後援・共催等】共催: Goldschmidt 2009 (ダボス, スイス, 6.21-26); 第 53 回粘土科学討論会(岩手, 9.10-11); 協賛: 地学オリンピック日本委員会 (協賛金 10 万円, 6.29)【庶務その他】地球化学 Vol. 43(特別号) 日本地球化学会ハンドブック 2009 の編集 (電算印刷へ入稿, 7.13); 地質地盤情報に関するアンケート調査への回答(NPO 地質情報整備・活用機構より依頼, 8.19 回答); 特許法 30 条に基づく指定学術団体に対する活動状況調査への回答(特許庁, 8.19 回答); 学会賞等賞状・メダル製作 (9. 7)【幹事会】2009 年 9 月 5 日 13:00 ~ 17:10 東京大学山上会館 第 3 回評議員会の議事内容について整理した (出席: 蒲生・海老原・石橋・小畑・佐野・鈴木・益田・南の各幹事)【今後の予定】2009 年総会: 9 月 16 日(水) 13:30 - 15:00 広島大学東広島キャンパス理学部 E1022009 年第 4 回評議員会: 9 月 17 日(木) 12:30 ~ 広島大学東広島キャンパス理学部 A017 室

(2) 会計 (南幹事) : 2009 年度中間決算が審議事項とともに報告された。

(3) 会員 (角皆幹事) : 8 月末時点の会勢について報告があった。正会員総数は 972 名で, 昨年同期と比較すると合計は 4 名の増加だが, 一般正会員は昨年同期より 15 名減少。学生会員(12 名増)とシニア会員(7 名増)の増加が, 一般正会員の減少を補っている。また, 7 月末日付けで名簿号を発行した(印刷は電算印刷株)。連絡先, 所属について, 非公開希望した会員が多数あった。さらに, 8 月末時点の 3 年会費滞納者が報告された。

会員異動 (2009/6/1-2009/8/31)

#### 【入会】

(6 月)

一般正会員

9282618	川村 紀子	カミラ リコ	海上保安大学校基礎教育講座 学生パック
9282614	松倉 誠也	マツクラ セイヤ	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
9282615	中川 麻悠子	ナカガワ マユコ	東京工業大学大学院総合理工学研究科化学環境学専攻
9282621	佐藤 晋太郎	サトウ シンタロウ	北海道大学理学部地球科学科
9282623	佐久間 博基	サクマ ヒロキ	北海道大学大学院理学院
9282628	内藤 裕一	ナイトゥ ユウイチ	東京大学新領域創成科学研究科

(7 月)

一般正会員

9282624	松永 壮	マツガ ヲウ	財団法人石油産業活性化センター自動車・燃料研究部
9282625	森川 佳太	モリカ ケイタ	株式会社ダイヤコンサルタント地盤・地下水解析センター地盤環境グループ
9282634	近本 めぐみ	チホト メグミ	(独)海洋研究開発機構地球環境変動領域
9282637	川瀬 雅也	カセ マサヤ	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部
9282619	安齊 沙耶	アザイ サヤ	北海道大学理学部地球科学科
9282620	大山 拓也	オオヤマ タクヤ	北海道大学理学部
9282627	山田 明憲	ヤマダ アキノリ	東京大学理学系研究科地球惑星科学専攻

(8月)

一般正会員

9282542	藪田 ひかる	ヤブタ ヒカル	大阪大学理学研究科宇宙地球科学専攻松田准一教授研究室
9282636	吉田 磨	ヨシダ コハム	酪農学園大学環境システム学部生命環境学科環境地球化学研究室

学生通常

9282633	塚崎 あゆみ	ツカサキ アユミ	名古屋大学環境学研究科地球環境科学専攻物質循環科学講座
9282635	松本 恭平	マツモト キョウヘイ	富山大学工学教育部生物圏環境科学専攻
9282630	長島 加奈	ナガシマ カナ	大阪大学宇宙地球科学専攻惑星グループ松田研究室
9282631	荒川 裕子	アラカワ ユウコ	大阪大学理学研究科地球惑星科学専攻惑星科学グループ

【退会】

(6月)

なし

(7月)

なし

(8月)

なし

【会員種別変更】

(6月)

会員番号	会員名	変更前	変更後
5282306	池端 慶	学生正会員	一般
9282480	昆 慶明	学生正会員	一般
4282325	白井 厚太郎	学生正会員	一般
5282276	田副 博文	学生正会員	一般

(7月)

なし

(8月)

9282373

島村 道代 学生

一般

	一般正 会員	学生正会 員 (学生パ ック除 く)	学生パ ック	シニア 正会員	賛助会 員	名誉会 員	計	在外会 員
2009.6.1	751	65	54	63	11	9	953	38
入会	7	2	10	0	0	0	19	0
退会	0	0	0	0	0	0	0	0
逝去	0	0	0	0	0	0	0	0
除名	0	0	0	0	0	0	0	0
会員種別変更	5	0	0	0	0	0	0	0
会員種別変更	0	-5	0	0	0	0	0	0
海外へ移住								0
帰国								0
2009.8.31	763	62	64	63	11	9	972	38
参考 2008.8.31	778	54	60	56	11	9	968	38

#### (4) 編集

a. GJ (佐野幹事) : GJ について、佐野幹事より報告があった。2009 年 No. 3 は 6 月 末に配布され、No.4 もすぐに配布される予定であることが報告された。続いて 8 月 28 日での編集状況が報告された。2009 年 5 月 15 日から、38 報(内訳：日本人は 16 報)が投稿され、19 報(内訳：日本人は 9 報)が受理されている。今年度の投稿論文のうち、29 報が却下され、51 報が審査中であり、AE 選考中が 2 報ある。また、現在 2 つの特集号(9th ICGG ;故酒井均先生追悼)が編集集中であるとも報告された。現在のところ、31 報が印刷待ちの状態にあり、2 つの特集号も動いているので一時期の受理論文不足は解消されているとのことであった。却下された 29 報の投稿論文の内、9 報は AE に回す前に編集長のレベルで reject していることなども報告された。また、最新号 No.4 の著者はすべて中国の研究者であることも指摘された。

b. 地球化学 (益田幹事) : 「地球化学」について、益田幹事より報告があった。2009 年度 3 号は 9 月初旬に発行した(報文 1 編, 受賞記念論文 1 編, 博士論文抄録 1 編)。特集号は 4 号に発行する。2009 年 1 月から報文が 8 報投稿され、4 編を受理、1 編を却下、3 編を審査中である。総説は 2 報投稿され、1 編を受理、1 編を審査中である。受賞記念論文については、5 編投稿され、2 編を受理、3 編を審査中である。博士論文抄録については、3 編が投稿され、3 編が受理された。投稿数が減っているため、投稿を促すべきとの報告があった。また、掲載論文の著作権を「地球化学」編集委員会に帰属させるための手続きと、その手続きの文書化を、年会期間中の編集委員会で検討する。なお、次期編集委員長(2010 年から)については、高橋嘉夫会員が就任する予定であるとの報告があ

った。

c. ニュース (石橋幹事): 石橋幹事より, ニュース電子メール版を ,2009No.088-148 まで 61 件(8 月 31 日現在)配信したとの報告があった。内訳は, 学会からの連絡(含む年会)18 件, GJ コンテンツ 3 件, 地球惑星科学連合・連合大会関連 4 件, 化学連合関連 5 件, 研究集会・国際学会・講演会など案内 6 件, 教員・研究員公募情報 19 件, 研究助成・共同利用・事業提案・研究計画など募集 3 件, 学術賞推薦募集 3 件であった。ニュースレターNo.197 を「地球化学 Vol.43, No.2」巻末で発行し(6/25), No.198 を「地球化学 Vol.43, No.3」巻末で発行(8/31)した。No.199 の予定(12 月発行予定)も紹介された。

#### (5) 広報 (鈴木幹事)

鈴木幹事より, 広報委員会の活動について報告があった。学会ホームページについては, Goldschmidt2009 を機に英語ページの更新を行った。まだ完成していないので, 継続して日本語ページから英訳し, 更新する予定である。また, 学会ホームページのトップページで学会員の最新成果が紹介され, 月に 2 - 4 回の更新が行われている(松本委員担当)。さらに, GJ の編集委員会で最新号に掲載された論文から editor's choice を選び, GJ の最新号がウェブに掲載されるタイミングで, トップページで宣伝する。トップページでは, 学会員の最新著書の紹介, 学会各賞・鳥居基金の受賞者紹介, 学会の様子を表す写真なども掲載していく予定である。Q&A ページは, 更にページを充実させるため, 新たな質問を追加する予定である(丸岡委員担当)。ウェブ広告については, 広告費が高いという意見があったので, 年間 12 万円に変更する。さらにホームページ広告掲載企業に, 学会メールニュースで年 12 回の宣伝を認めることとなった。広報委員を中心にいくつかの業者に広告掲載を打診しているが, 評議員にも取引のある業者に広告掲載を打診するように要請があった。

また, 昨年同様, 年会で報道機関に対して, 各セッションからハイライト講演 1 件を選んで, プレスにその情報を投げ込むことになった(橘委員担当)。各セッションコンペーナにハイライト講演選択を依頼した。

Goldschmidt2009 に学会ブースを出展した(下田委員, 折橋委員担当)。学会ブースでは, 学会の旗の掲示, GJ(印刷版および CD-ROM)の無料配布, 学会のパンフ, GJ の Express Letter のチラシ(200 部)の配布を行った。また, GJ 賞の Kusakabe et al. (2008)の論文別刷をブースにおいて配布した。ブースは人通りが多い, 非常にいいロケーションであったために, 学会員, 非会員問わず, 多くの学会参加者が立ち寄り, GJ は CD, 印刷版ともに学会前半で無くなった。これらの Goldschmidt 会議の様子は, 学会のニュース(印刷版)に掲載される(下田委員)。

年会のブースにおいては, 地球化学講座を販売する予定である。また, GJ の CD, 印刷版, 「地球化学」誌のバックナンバー, 学会の入会案内, GJ の Express Letter のチラシの配布も行う予定である。

講師派遣について, 登録用紙を現在作成中である(山本委員, 小木曾委員担当)。登録を年会で行い, 各広報委員・評議員の地元教育委員会(できれば都道府県レベル)に講師派遣について宣伝する。学会における講師派遣では, 講師募集と登録 派遣リクエストへの対応と仲介を行う。交通費の実費は派遣先が負担し, 謝礼なし, を原則とする。講師 1 人あたり派遣回数は年一回を基本とし, 登録者 30 人を目指す。

また, 学会パンフレット・GJ チラシ配布についての要請があった。

(6) 行事 (平田幹事): 平田幹事より、日本地球惑星科学連合大会について報告があった。日本地球惑星科学連合大会は 2009 年 5 月 16 日から 21 日まで、幕張メッセ国際会議場で開催された。本年度発表者数は 3088 件(昨年度比 4%減)で最近 5 年間はほぼ横ばいであり、有料登録者数は 3500 人(5 月 20 日現在)で 2008 年度(4025 人)に比べて 10%減となった。日本地球化学会では展示ブースを開設し、学会活動のアピール、地球化学講座シリーズの販売、ショートコースパンフレットの配布などを行った。広報委員に大きな負担をかけているので、展示形態・ブース運営方法を再検討すべきではとの指摘があった。地球化学会と地球惑星連合との連携強化を念頭に、年会の運営形態を議論してはどうかとの意見があった。

また、ゴールドシュミット国際会議が 2009 年 6 月 21 日から 26 日にかけてスイス・ダボスで開催されたことが報告された。日本地球化学会会員は 50 ユーロ割引(早期登録の場合、登録料が 470 ユーロのところ 420 ユーロに割引)の優遇措置があった。日本地球化学会は Exhibition で展示ブースを開設した。2010 年は米国テネシー、2011 年はチェコ・プラハで開催予定とのことであった。

続いて、地球化学会の 2009 年年会(平成 21 年 9 月 15 日~17 日、広島大学理学部)についても報告が行われた。大会実行委員長は清水洋会員。開催形式は 2008 年度と同じセッション制(すべての発表を 30 程度のセッションの中で行う)、7 月 13 日(月)に講演申し込みが終了し、約 340 件の申し込みがあった。学会賞記念講演、総会、懇親会、夜間集会等を予定であることが報告された。さらに、日本地球化学会年会にあわせて開催される第 4 回ショートコースについて報告があった。平成 21 年 9 月 14 日(月曜日)午前 9 時 30 分~夜 6 時頃まで、広島大学東広島キャンパス理学部 E 棟 104 号室(E104)において開催される。定員 50 名、参加費 3000 円(地球化学会学生会員は学会からの補助により 2000 円引)である。8 月 25 日現在で 21 名の参加申し込みがあった。プログラムについても紹介された。

日本地球化学会 2010 年度年会についても報告があった。2010 度の日本地球化学会年会は、立正大学(熊谷キャンパス)で開催予定であり、大会実行委員長は福岡孝昭会員。開催時期、開催方式、運営方式(評議委員による LOC 支援)等について議論を開始したことが報告された。

・2009 年 年会 (日高評議員): 2009 年度日本地球化学会年会準備状況について、2009 年度年会 LOC の日高評議員より報告があった。年會に先駆け、市民講演会「宇宙・太陽系の進化と現在の姿」ならびに東広島天文台見学会を 9 月 13 日(日)13:00~17:00 に開催されたことが報告された(参加申込者 33 名)。年會の各種受付については、7 月 17 日(金)に講演申込が締め切られた。講演申込は 342 件(内訳:口頭 259 件、ポスター 83 件)であった。8 月 28 日(金)に事前参加登録が締め切られた。申込は 304 名(内訳:名誉会員 2、一般会員 173、学生会員 32、一般非会員 23、学生非会員 74)であった。また、8 月 17 日(月)に年会 web page 上で年会講演プログラムが公開された。さらに、9 月 1 日(火)に J-STAGE 上で講演要旨が公開された。企業展示は 13 件、要旨集への広告は 19 件を受入れた。企業展示会場はポスター会場と同じ P 会場を使用する。地球化学会 ニュース No.198 用に、「年会のお知らせ(3)」および年会プログラムの原稿を作成し、石橋幹事に送付した。さらに、9 月 15 日開催予定の年会キャリアパスセッション「地球化学から教育界へのキャリアパスの模索」を一般公開として対応することとし、同セッションならびに市民講演会「宇宙・太陽系の進化と現在の姿」を日本地球化学会公開イベントとして取り扱い、広島大学広報グループを通してプレスリリースした(9 月 1 日)。その他、年會の各セッションの講演の中で注目に値するものをコンピーナー

に推薦してもらい、広報委員会を通して報道機関へ投げ込みを行うこととした(9月1日に依頼メール配信)。また、各評議員に対し、ポスター賞審査の依頼があった。

#### (7) 各種委員会

a. 鳥居基金委員会(平田委員):2009年度第2回鳥居基金選考結果について、中井俊一鳥居基金選考委員会委員長の代理として、平田委員から報告があった。2009年度第2回鳥居基金に応募された海外渡航5件、国内研究集会2件から、海外渡航、国内研究集会ともに1件ずつの助成が推薦された。国内研究集会としては、2009年度日本地球化学会若手シンポジウム(山田健太郎会員)、海外渡航としては、光延聖会員(ゴールドシュミット国際会議2010,2010.6.12-6.18)が選ばれた。

b. 選挙管理委員会(天川委員長):2010-2011年度役員選挙の結果について、天川選挙管理委員会委員長より報告があった。有効投票は173票であり、海老原充会員が会長に、吉田尚弘会員が副会長に、松久幸敬会員が監事に選ばれた。評議員として、鍵裕之会員、鈴木勝彦会員、高橋嘉夫会員、中井俊一会員、山本鋼志会員、川幡穂高会員、下田玄会員、谷水雅治会員、松本拓也会員、橘省吾会員、丸岡照幸会員、平野直人会員、野尻幸宏会員、三澤啓司会員、山中寿朗会員、西尾嘉朗会員、瀧上豊会員、谷本浩志会員、松枝秀和会員、川口慎介会員が選ばれた。

c. 将来計画委員会(海老原委員長):将来計画委員会の活動について、海老原委員長より報告が行われた。GJなどの出版事業について委員会を設けることを検討中との報告があった。

d. 「地球と宇宙の化学事典」編集委員会(蒲生会長):蒲生会長より、「地球と宇宙の化学事典」の編集状況について報告があった。項目・執筆者・ページ数が確定され、執筆依頼を現在行っていると報告された。原稿の締切を2010年2月末とし、締切厳守とすることが確認されている。2011年春頃の刊行を目指している。

e. 地球化学講座の編集状況について(蒲生会長):蒲生会長より、第8巻について近日刊行される見込みとの情報が田中剛会員からあったことが報告された。

#### (8) 連合関係

a. 日本地球惑星科学連合総務委員会(平田委員):平田委員より、日本地球惑星科学連合総務委員会の活動状況について報告が行われた。委員会は連合大会会期中(2009年5月20日(水))に開催された。連合大会の参加者数、総務委員の任期、会員管理小委員会設立、法人化の経緯と現状などについて話し合われたとの報告があった。

b. 日本地球惑星科学連合代議員選挙(蒲生会長):日本地球惑星科学連合代議員選挙に対する日本地球化学会の対応が蒲生会長から報告された。各セクションにおいて、日本地球化学会会長から代議員を推薦することとなった。

c. 日本化学連合(海老原副会長):日本化学連合の活動について、海老原副会長より報告が行われた。

(9) IAGC 関連(海老原副会長):IAGCの活動について、海老原副会長より報告が行われた。

(10) その他:「地学オリンピック日本委員会」の活動報告が瀧上評議員より送られ、小畑幹事が代理で報告を行った。2012年の国際地学オリンピックは日本で開催される予定であることが報告された。また、GJの電子化を進めるため、入会・変更申込書の「GJの入手法について」の文面を変更することが報告された。

#### 3. 審議事項

- (1) 2008 年度事業報告・2009 年度事業中間報告・2010 年度事業計画 (小畑幹事) : 小畑幹事より, 2009 年度総会で審議・報告する「2008 年度事業報告・2009 年度事業中間報告・2010 年度事業計画」が示された。審議の結果, 字句の修正後, 総会において承認を受けることが認められた。
- (2) 2008 年度決算報告・2009 年度会計中間報告・2010 年度予算 (南幹事) : 南幹事より, 2009 年度総会で審議・報告する「2008 年度決算報告・2009 年度会計中間報告・2010 年度予算」が示された。審議の結果, 字句の修正後, 総会において承認を受けることが認められた。
- (3) 2009 年度総会議事次第 (小畑幹事) : 小畑幹事より, 2009 年度総会議事次第が示され, 承認された。
- (4) 委員(学会賞等選考委員, 鳥居基金委員)の選挙 : 2010 年度の学会賞等選考委員, 鳥居基金委員について, 一部改選が行われた。投票の結果, 学会賞等選考委員には坂本尚義会員, 吉田尚弘会員が選ばれ, 鳥居基金委員には蒲生俊敬会員が選ばれた。
- (5) 日本地球惑星科学連合各種委員の選出について(蒲生会長) : 日本地球惑星科学連合のプログラム委員を今後どのように選出するかについて審議が行われた。現委員から 1 年 1 名ずつ交替することが提案され, 承認された。但し, 2010 年度からプログラム編成が大きく変わる可能性があるため, その動向を見極めながら対応していくこととなった。
- (6) その他 : 特になし

#### 4. 次回の評議員会の日程

第 4 回評議員会 9 月 17 日(木) 12:30 ~ 広島大学理学部 A017 室 (大学院講義室)  
2009 年度評議員から 2010-2011 年度評議員への引き継ぎを行う。